

新南陽の景況感

調査概要

調査対象期間	2022年7月～9月（現状）における景況感と、2022年10月～12月（今後）における景況見通し
調査対象	新南陽地域の企業63社
調査方法	商工会議所経営指導員等職員の巡回相談時に調査票回収
調査項目	「業況」、「売上高」、「採算」、「仕入単価」、「従業員」、「設備」、「資金繰り」

産業全体

業況DIIは依然としてマイナス、円安・コスト負担は全業種に影響し、採算は改善せず、先行き見通しの業況DIIは物価高の長期化で厳しい見方。

新南陽地域の2022年7月～9月期の業況DIIの全産業合計値は▲63.0%となり、前期調査（4月～6月期）よりもマイナス幅がわずかに0.2ポイント縮小のほぼ横ばい。全国では、「第169回中小企業景況調査（中小企業基盤整備機構）」全産業の業況DIIのマイナス幅は拡大している。

新南陽地域の今後3カ月の先行き見通しでは、全産業合計値のマイナス幅は拡大する見通しとなっており厳しい見方となっている。全国の今後3カ月の先行き見通し「第169回中小企業景況調査」の全産業合計値は、マイナス幅は縮小する見通しとなっている。全国的には高騰が続く資源・原

DI（景気判断指数）値とは？

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナス値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率をいしめものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり意味する。

DI = (増加・好転などの回答の割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化)

売上：(増加) - (減少)

	全体		卸・小売業		製造業		サービス業		飲食・宿泊業		建設業		運輸業		保険業	
	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し
業況	-63.0	-68.0	-100.0	-100.0	-60.0	-50.0	-100.0	0.0	20.0	-20.0	-100.0	-100.0	-50.0	-100.0	0.0	0.0
売上高	-68.8	-57.1	-100.0	-81.8	-60.0	-33.3	-100.0	-33.3	0.0	0.0	-100.0	-100.0	-60.0	-33.3	0.0	0.0
採算	-93.3	-73.3	-100.0	-81.8	-50.0	-100.0	-100.0	-60.0	-100.0	0.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	0.0	0.0
仕入単価	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	0.0	0.0
従業員	68.0	61.5	0.0	0.0	50.0	50.0	-100.0	-100.0	66.7	60.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0
設備	71.4	66.7	50.0	50.0	100.0	100.0	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0
資金繰り	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	0.0	0.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※前年比…2022年7月～9月と前年同月の比 見通し…今後3ヶ月（2022年10月～12月）の見通し

会員の声

【卸・小売業】

- ◇景気はまちがいに改善していると思いますが、それにプレーキをかけているのは、物価高などの影響があります。
- ◇いつも大変お世話様になり、感謝しております。今年は例年になき、残暑で、又、コロナもなかなか終息せず困っております。お客様が少なく、大変、厳しい状態です。又、インボイス制度のことも心配です。
- ◇コロナも終息傾向にあるようだが、物価高の影響で買い物意欲が低下している。安いのを追っかけている気がする。業界ではお茶ばなれが加速している。（急須でお茶を飲む習慣がうすれている）

【製造業】

- ◇原油価格高騰、仕入価格高騰により、商品価格の値上げが経営上の問題である。

【サービス業】

- ◇原油価格高騰。

【飲食・宿泊業】

- ◇プレミアム食事券のおかげで来客が増加しました。

【建設業】

- ◇仕入価格が万単位で上昇した商品もあった。

【運輸業】

- ◇国交省の船員の働き方改革推薦の法改正もあり、船員の人手不足が深刻になっており、採用活動に苦慮している。
- ◇原油価格の高止まりは変わらず、見通しも厳しさが続く予測。当社の主力事業である運送業への影響ははかりきれない。ただ経費を若干おさえることができているので、経営利益への影響は最小限に抑えることができている。
- ◇物流業界の人手不足について深刻化が増し、今後も具体的な解決策がない状態である。山口県は全国平均よりも有効求人倍率が高い状態にあり、このまま高卒就職希望者数も減少し続けることとなると、更なる物流の混乱が発生することは間違いないと考えらる。

すべてが▲100%（全事業者が悪い）と回答。改善すると見込んだ事業者はいない。仕入価格が大きく上昇した商品もあると報告有。
【運輸業】
業況DII、売上高DII、設備DII、資金繰りDIIが前回の調査に比べて改善している。採算DII、仕入

単価DIIは▲100%（全事業者が悪い）と回答。今後3カ月の先行き見通しの業況DIIは悪化して▲100%（全事業者が悪い）と回答となる見込み。
原油価格高騰による影響と人材不足が深刻と報告有。

材料価格、円安の急伸による輸入品の価格上昇は全業種で業況が悪化した。建設業の人材不足、製造業の部品供給不足、卸売業では台風等の天候不良による物流コスト増など、感染状況が落ち着き、人流は回復基調にあるものの、コスト負担の増加が企業経営の重荷になっている。（商工会議所LBO調査9月）

【卸・小売業】

業況DII、売上高DII、採算DII、仕入単価DII、資金繰りDIIが▲100%（全事業者が悪い）と回答。また、仕入単価DII、従業員DII、設備DIIは前回と比べて悪化している。

今後3カ月の先行き見通しの売上高DII、採算DIIは、マイナス幅が減少する見込み。物価高の上昇が買物意欲の低下を招いていると報告有。

【製造業】

業況DII、売上高DII、従業員DIIが前回の調査に比べてマイナス幅が拡大した。採算DIIは前回に比べてマイナス幅が減少している。仕入単価DII、資金繰りDIIは前回と同じで▲100%（全事業者が悪い）と回答。今後3カ月の先行き見通しは、業況DII、売上高DIIはマイナス

幅が減少する見込み。

原油価格高騰により製品の価格上昇が問題になっていると報告有。

【サービス業】

業況DII、売上高DII、採算DII、設備DII、従業員DIIが▲100%（全事業者が悪い）と回答。資金繰りは改善して前回の▲100%から0%になった。今後3カ月の先行き見通しでは、業況DII、売上高DII、採算DIIのマイナス幅は縮小する見込み。原油価格の高騰の影響が出ているとの報告有。

【飲食・宿泊業】

業況DII、売上高DII、従業員DIIが前回の調査に比べてマイナス幅が縮小している。採算DII、仕入単価DII、資金繰りDIIは▲100%（全事業者が悪い）と回答。今後3カ月の先行き見通しの業況DII、従業員DIIはマイナス幅が拡大の見込み。プレミアム食事券のおかげで回復したとの報告有。

【建設業】

従業員DII、設備DII以外の項目すべてが▲100%（全事業者が悪い）と回答。改善した項目は無い。

今後3カ月の先行き見通しも、従業員DII、設備DII以外の項目